

## 分子標的薬について No. 5

### 乳がん治療

#### ★ ハーセプチン（トラスツズマブ）

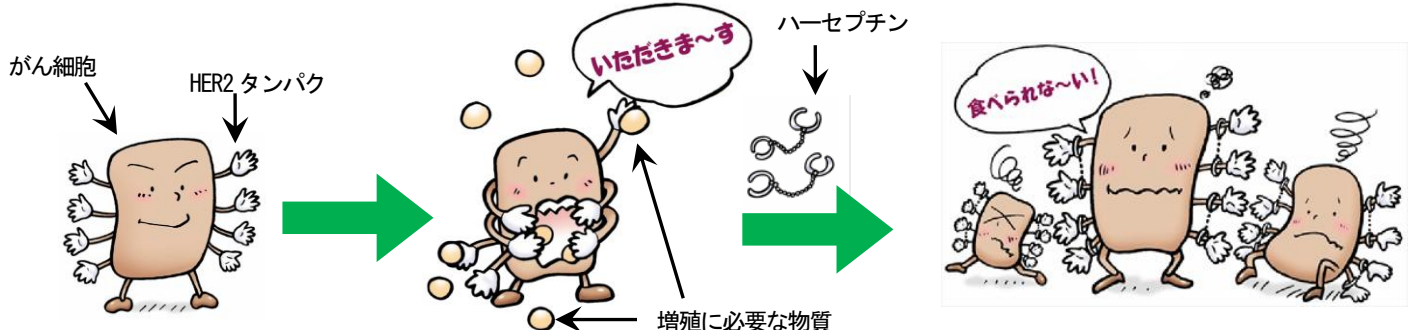
ハーセプチンは、がん細胞の表面にあるHER2タンパクを標的として作用します。HER2タンパクは、がん細胞が増殖するのに必要な物質を取り込む働きをしているため、ハーセプチンが作用することにより、がん細胞はそれ以上増殖することができなくなります。

使用方法は・・・？

1～3週間に1回、30～90分かけて点滴します。

起こりやすい副作用は・・・？

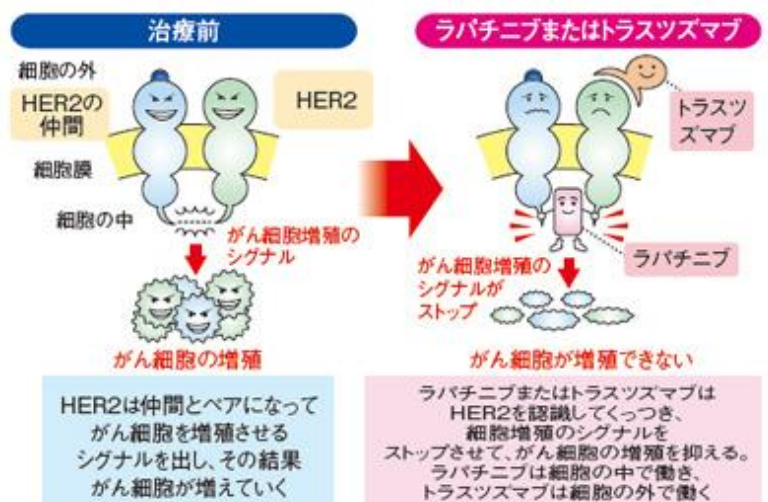
発熱・悪寒・吐き気・頭痛等が起こることがあります。ただし、これらの副作用は出たとしても初回のみで、2回目以降はなくなるのがほとんどです。



#### ★ タイケルブ（ラパチニブ）

タイケルブは、手術ができない、または再発のHER2陽性乳がんの治療薬として2009年に新たに登場したお薬です。HER2タンパクだけでなく、EGFR（HER1）タンパクも標的として認識し、細胞増殖のシグナルをストップさせることにより、がん細胞の増殖を抑えます。

ハーセプチンが細胞膜の外側からHER2タンパクを攻撃するのに対して、タイケルブは内側から作用し、細胞増殖のシグナルをストップさせることにより、がん細胞の増殖を抑えます。



## ★タイケルブ

服用方法は・・・？

タイケルブはゼローダ（カペシタビン）というお薬とあわせて服用します。

### ★タイケルブ

通常1日1回5錠、食事中および食事の前後1時間以内を避けて服用（毎日）

### ★ゼローダ

決められた量を1日2回、朝夕の食後30分以内に服用

（2週間続けて飲んで、一週間休薬を繰り返す）

起こりやすい副作用は・・・？

下痢、吐き気・嘔吐・食欲不振、口内炎、全身の疲労感、発疹、手足の皮膚炎・皮膚の乾燥、爪・爪周囲の変化等の症状が現れることがあります。

お薬の効果に影響するおそれがあるものは・・・？

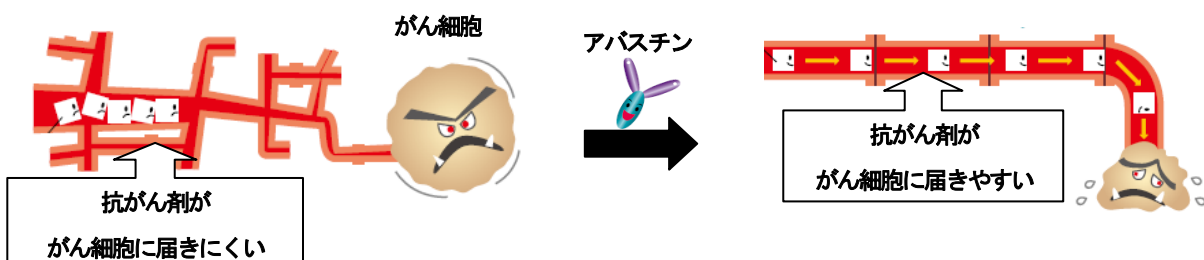
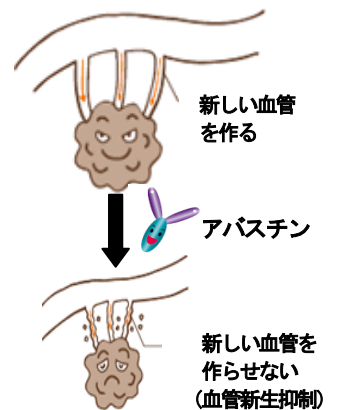
グレープフルーツ、グレープフルーツジュースやセイヨウオトギリソウ（セント・ジョーンズ・ワート）含有食物は食べるのを控えて下さい。  
抗がん剤、てんかんの薬、心臓の薬など、注意が必要なお薬があるため事前に主治医または薬剤師にご相談下さい。

## ★ アバスチン（ベバシズマブ）

アバスチンは、がん細胞が分泌する血管内皮増殖因子（VEGF）と呼ばれるタンパク質を標的として作用します。

VEGFは、がん細胞が増殖するために必要な新しい血管を作る作用を持っており、アバスチンが作用することで、がん細胞に新しい血管ができなくなるため、栄養や酸素が補給されなくなりがんの成長が妨げられます。

また、がんが作り出した血管は異常な形をしているため、投与された抗がん剤が、がんまで届きにくくなっています。アバスチンには、これらの血管を整備して、抗がん剤ががん細胞まで届きやすくなる作用もあります。



使用方法は・・・？

パクリタキセルというお薬と組み合わせて使用します。

パクリタキセルを約60分、アバスチンを約30～90分かけて点滴します。

3週通院して1週お休みを繰り返します。

起こりやすい副作用は・・・？

血圧が高くなる・頭痛・吐き気、鼻などからの出血が起こることがあります。



早く症状に気付くためにも、自宅で血圧測定を行います。  
安静時に繰り返し測定しても血圧が高い場合は、病院に連絡しましょう。